

重点取組分野	令和4年度 学校評価報告書		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	<p>①主体的な学びにつながる教材と方法の開発を目指した授業研究に取り組む。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びの中で、課題を解決する能力を育てられるよう授業改善を推進する。</p> <p>③思考力・判断力・表現力の育成を図る授業の工夫を行う。</p> <p>④指導を通して「しなやかで強い心」(自己肯定感や自己有用感)を育てる。</p>	<p>①校内授業研を3回、小中一貫教育推進ブロック授業研(紙面)を実施し、授業改善や学習評価についての理解を深めた。</p> <p>②③教育課程委員会や各教科会等で、情報交換をしながら、課題とその解決に向けて取り組んだ。</p> <p>④小中一貫ブロックで課題を共有しながら、その解決の手立てについて考えた。</p>	B
人権教育	<p>①こども会議のテーマをもとに、一人ひとりが、主体的に人権について考え、話し合い、小中ブロック全体で取り組む取組の充実を図る。</p> <p>②学校教育全体で、道徳教育を充実させ、多様性や個性を尊重し会える学校づくりを行う。</p> <p>③様々な角度・視野から人権について考える授業を企画・運営し、その意識を高める。</p>	<p>①子ども会議での話し合いを丁寧積み重ね、「六ツ川中ブロックスローガン」を決定・推進し、地域で取組を充実する活動ができた。</p> <p>②特別な教科道徳を中心に、特別活動や総合的な学習の時間とも関連させながら、計画的に人権教育に取り組むことができた。</p> <p>③多角的な人権教育へのアプローチについては、今後の課題として、次年度も継続して取り組んでいきたい。</p>	B
健康教育	<p>①生涯体育の礎を築く保健体育科の授業改善を図るとともに、体育的行事や集会などにおいて、生徒が主体的に取り組む授業を目指す。</p> <p>②主体的に健康的な生活を実践することができるよう、計画的に健康教育を実施し、健康・安全についての知識・理解を深める。</p> <p>③地域と連携した防災教育や安全教育の充実を図る。</p>	<p>①平素の授業の取組の成果として、体育祭や球技大会を位置付け、生徒が主体となって実施方法を話し合い、体育的行事を運営することができた。</p> <p>②「睡眠」「生活習慣」「食育」といった基本を重点的に計画・運営することができた。さらに、喫煙防止教育・薬物乱用防止教育などについて、教科等が連携した指導を行うことができた。</p> <p>③コロナ禍のため、地域と協働した防災教育について、しっかり行うことができなかった。</p>	B
キャリア教育	<p>①総合的な学習の時間、特別活動を中心に、地域社会と関わりながら体験的に学ぶ機会・場面をとり入れる。</p> <p>②生徒一人ひとりが、自分の将来に向けて主体的に学び続けることができるよう、職業講話や職業体験学習を実施する。</p> <p>③「キャリア・パスポート」を活用し、自分の学習状況を把握したり、キャリアプランを構築したりする中で、変容や成長を客観的に自己評価できるようにする。</p>	<p>①地域の事業所等をゲストティーチャーに招き、職業について考える機会を設けた。事前、事後の学習も計画的に実施することができ、次年度の職場体験に繋げることができた。</p> <p>②2年ぶりに職場体験を実施することができ、子どもたちにとって貴重な体験学習となった。①と同様、事前・事後の学習も計画的どおり実施することができた。</p> <p>③どうしても進学指導に偏ってしまった感は否めない。「キャリアパスポート」の有効活用について、再考していきたい。</p>	B
いじめへの対応	<p>①いじめへの組織的な対応はもとより、生徒がいじめを自分自身の事としてとらえ、「いじめをしない、させない」環境を整えるために、主体的な学びを継続する。</p> <p>②月1回以上、いじめ防止対策委員会を開催し、認知案件の経過観察を丁寧に行うことにより、再発防止につなげる。また、生徒の心情に寄り添うことで、積極的にいじめを認知する。</p>	<p>①4月にいじめ防止研修を行うとともに、長期休業明けのアンケートや教育相談を実施し、いじめの早期発見に努めた。</p> <p>②毎月の月末に、いじめ防止対策委員会を開催し、状況の共有と対応方針を定めるとともに、具体的な対応や支援に努めた。より組織的な全校での支援体制を強固にするため、それに向けた改善を進めている。</p>	B
人材育成・組織運営(働き方)	<p>①メンターチームを活用し、経験の浅い教職員とともに、ミドルリーダーの育成を推進する。</p> <p>②各分掌において、行動目標を設定し、具体的な取組と改善を積み重ねることにより、主体的によりよく改善できる組織づくりに取り組む。</p> <p>③時間外の対応や会議・行事の精選について、ボトムアップ体制を構築し、職員が主体的に取り組む働き方改革を進める。</p> <p>④部活動方針に基づく各部ごとの計画を立て、横浜市ガイドラインに準じた活動を運営する。</p>	<p>①年10回程度のミドルリーダーを講師としたメンターチーム研修を実施し、若手教員の育成に努めた。</p> <p>②③衛生委員会や教務部を中心に、様々な改善や試みを行いながら進めている。課題が大きすぎるため、なかなか効果が表れていないが、引き続き丁寧に取り組んでいきたい。</p> <p>④部活動について、持続可能な在り方について部活動顧問会で検討している。</p>	B
地域学校連携活動	<p>①直接的な地域行事への参加やボランティア活動への取組はできることから進め、別の形での連携を模索しながら、生徒会や部活動、学校全体が地域とつながりをもてるようにする。</p> <p>②地域行事やその情報の周知について、掲示板の有効活用だけでなく、積極的に学校ホームページで発信する等、効果的な方法を考え実践していく。</p> <p>③学校家庭地域連携事業を通じて、学校・保護者・地域の方々と連携し、話し合いの場をもち、子どもたちの居場所づくりや地域との適切な関わりについて、より具体的に考え、推進していく。</p>	<p>①コロナの影響のため、ほぼ活動や機会がなかった。コロナ禍での取り組み方法に工夫が必要である。</p> <p>②学校の様子については、こまめに学校ホームページで伝えることができています。引き続き、ホームページの充実に努めたい。</p> <p>③学家地連の活動もコロナ禍のため、十分に活動ができていない。①と同様に、その運営について見直しが必要である。</p>	B

重点取組分野	令和4年度 学校評価報告書		総括
	具体的取組	自己評価結果	
児童生徒指導	<p>①横浜こども会議や学校保健委員会を通して、生徒会活動と連携し、生徒が自己や周囲の人の事について考える事ができるようにする。</p> <p>②Y-pアセスメントやいじめアンケートを活用し、積極的に生徒に関わることで、教員が生徒の直面している課題を知り支援に役立てることができるようにする。</p>	<p>①生徒会が中心となり、いじめや健康管理について学び合い、話し合う機会を設定できた。食育について考える機会を設けることもできた。</p> <p>②教育相談における生徒の情報を学年教職員で共有し、日頃の声かけを積極的に行い、生徒の状況把握に努めた。生徒指導研修会や学年連絡会を行いながら、教職員の指導方針を一致させ、生徒一人ひとりを丁寧に支援できるよう努めた。</p>	B
ブロック内評価後の気づき	<p>・小中一貫教育推進ブロックの研修会及び授業研究会では、ブロックで目指す「自立のための基礎力」や「自己肯定感の育成」をテーマに設定し、ここ数年、活発な情報交換・意見交換を行っている。さらに、実効的なものにするため、継続した取組を行っていききたい。</p> <p>・小中ブロック専任会では、子ども会議で話し合った取組について、その成果について、追跡しながら、実効性を高める取組にしていききたい。</p>		
学校関係者評価	<p>・学校運営協議会に書面でお伝えした。</p> <p>・(数年前より)学校活動の評価について、もっと科学的に(数値やデータを活用して)検証することを助言されている。継続課題として取り組みたい。</p>		
中期取組目標振り返り	<p>・新たな学校経営中期取組目標を掲げ、重点取組分野の目標の実現に向けて、職員全体及びブロック内小学校で共有・連携しながら取り組んだ一年であった。全職員の学校運営への参画意識向上につながるよう、さらに助言していきたい。</p> <p>・生徒の地域活動への積極的な参加については、コロナ禍のため、学校と地域が連携して取り組む機会があまりなかった。今後、学校活動が元に戻ってくることで、少しずつ地域との連携活動が増えることが予想されるが、学校運営協議会を中心としながら、新たなアイデアを生み出していきたい。</p> <p>・本年度、新たに立ち上げた取組を来年度に向けてさらに充実したものにしていきたいと考える。</p>		